

夏期の高温が予想されます。 今後の管理に注意！

1. 水管理の徹底！

出穂前後各3週間は、品質向上とカドミウム吸収抑制対策のため、湛水管理を行いましょう。

出穂期以降は、稲が最も水を必要とする時期です。この時期に水が切れると白未熟粒や胴割粒の発生が多くなります。

収穫作業に支障のない範囲で、出来る限り遅くまで入水しましょう。

2. 追肥を施用し、稲の栄養維持！

高温により稲の栄養が不足し、登熟が阻害され白未熟粒の発生が懸念されます。稲の栄養維持のため、追肥を施用しましょう。

		施用時期	施用量
全量基肥体系	早生品種	出穂期から穂ぞろい期 ※葉色の薄いほ場：出穂11日前～ 出穂4日前（穂ばらみ期～走り穂）	窒素 成分量 1～2 kg/10a
	中生品種	出穂11日前～出穂4日前 （穂ばらみ期～走り穂）	
分施体系	倒伏しやすい品種	2回目の穂肥を 増量	
	倒伏しにくい品種	1回目の穂肥の 10日後	

- 施用量が多いと玄米タンパク質含有率が高まるため、食味の低下が心配されます。基準量以下の施用としてください。
- 「環境こだわり農産物」のほ場では、認証基準を守ってください！
認証基準；**化学肥料の窒素成分量4 kg/10 a以内**
- 現在、葉色の濃いほ場では、必要ありません。

作業は気温の高い時間帯を避け、こまめな塩分・水分補給や休憩を行いましょう！